

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○教科に関する調査では、国語A（知識）の平均正答率は大阪市とほぼ同等であったが、国語B（活用）・算数A（知識）・算数B（活用）・理科においては、大阪市より1～3%下回った。全国と比較するとすべてにおいて2～5%下回った。無答率においては、国語Aで大阪市・全国の平均を2%上回ったが、他はすべて大阪市平均並みであった。課題は、「理由を書く」「グラフの内容を書く」「考えや実験からわかったことを書く」といった記述式の回答で正答率が低くなっており、無答率も高くなっていることが挙げられる。

○質問紙調査からは、「きまりを守ろう」とする規範意識や「人の役に立とう」とする公共の精神の高さが伺える。「自分にはよいところがある」「いじめはどんな理由があってもしてはいけない」について大阪市平均を上回り、全国平均と同じ傾向である。また、「話し合い活動を通して自分の考えを深め広げることができている」とする回答率が高く、日々の学習に積極的に取り組んでいることが伺える。しかし、「将来の夢や希望をもっている」については、大阪市と全国ともに大きく下回っている。また、「朝食」「家庭での自学、予習・復習」「家族との会話」といった家庭内に関する項目において、全国平均と比較すると消極的な傾向が見られる。本校の課題である自尊感情については、今年度も全国平均とほぼ同じ回答傾向であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕・・・漢字の書き取りについては約8割の正答率であるが、似た漢字の区別が難しい傾向もある。日々の家庭学習での課題や朝のチャレンジタイム等を活用した基礎・基本の積み重ねが成果を表しているが、細かな漢字の使い分け等の理解が十分ではない。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを書く」など、記述式で回答する設問で全国平均の正答率を下回っていることから、引き続き「書く」活動に重点を置いた指導が課題として挙げられる。

〔算数〕・・・領域別にみると算数A（知識）では「量と測定」、中でも「分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める」を問う設問で全国平均の正答率を18%も下回った。一方、「数量関係」の「割合を選ぶ」「示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ」を問う設問では、平均無答率が高いものの平均正答率は全国よりも1～3%上回った。算数B（活用）では記述式（短答式含む）の設問でつまづきが多く見られるとともに、「規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断する」という普段ふれることの少ない設問に苦手意識を感じていることが伺える。いずれも全国平均の正答率よりも同等か低い正答率だったことから、「問題内容を正しく把握すること」「書くこと」「分度器等の使い方」に対して抵抗感をなくしていくため、引き続き、少人数指導、習熟度別指導を通してきめ細やかな指導を行うとともに、朝のチャレンジタイム等で基礎・基本の定着を図る。

〔理科〕・・・「人体の仕組み」「流される水の働き」において基本的な事柄を正しく理解したり、結果を見通して実験を構想したりする設問で、全国平均の正答率を大きく下回った。また、「実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる」の記述式で回答する設問でも平均正答率は下回っている。「正しく把握する」「書くこと」について、他の教科と関連付けながら指導をする必要がある。

質問紙調査より

○「学校のきまり守っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問項目について肯定的な回答は、いずれも大阪市・全国の平均を上回る結果だった。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目についての肯定的な回答が、大阪市平均を上回り全国平均とほぼ同じだったことから、先の2つの質問項目と合わせて規範意識の高さが伺える。

○自尊感情を問う「自分には、よいところがあると思いますか」という質問項目では、大阪市平均を上回り全国平均とほぼ同じだったことから、今年度は昨年度に比べ自尊感情の高まりが見られる。

○「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問項目については、大阪市・全国の平均を上回る結果だったことから、学校での学習活動への意欲の高まりが見られる。

○「将来の夢や目標を持っていますか」の質問項目では、大阪市・全国平均を下回り消極的な結果になっている。また、「朝食を毎日食べていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」「家の人（兄弟姉妹）を除く」と学校での出来事について話をしますか」の質問項目では全国平均を下回り、家庭での過ごし方に課題が見つかった。

今後の取組(アクションプラン)

○「内容を正しく把握する力」「書く力」の育成に努める・・・国語と算数、理科に共通する課題は「内容を正しく把握する力」「書く力」であり、例年挙げられている課題である。各教科にとどまらずあらゆる授業の中で課題解決に向けての自分の考え方や振り返りを等をノートにまとめる活動を継続し習慣を定着させ「書く力」の向上を図る。また、文章の内容や物事の関係性を正しく把握するための「読み取る力」を向上させるために、読書タイムや学校図書館補助員を活用し本に親しむ機会を継続して作ったり、視写の活動を取り入れたりすることが望まれる。

○家庭での過ごし方の改善を図る・・・家庭での計画的な学習（宿題・予習・復習）、家族との会話の時間の確保、朝食の摂食について学校だより等を通して家庭へ啓発を行っていく。PTA実行委員会や学校協議会でも積極的に話題として取り上げ、各家庭の取り組みではなく地域全体の取り組みとして捉える意識を高めていく。